

冬 日

早村 春鶴

冬日さすこのバス停の立話
北国の正月待つ子二人のみ
元旦やいつもの道を寺詣てらゆき
新年の挨拶宮司長々と
今年こぞもまた浪速で過ぐす寒の入

年の瀬

山本 春英

立冬の門開け放ち児等を待つ
年の瀬やせかせか歩く人多し
大根だいこんの半分買つても手にあまる
大根焚食べごたへあり満腹に
緑なす大根の葉や天仰ぐ

冬の景

山内都代子

襟巻のセンスは娘父笑顔
冬の日の図書館回り人まばら
串刺しの銀杏ぎんなん三つおでん種
ガラス拭き脚立登りて冬の空
日向ぼこめくるページのサスペンス

諏訪の旅

坂井 白萩

来年の幸祈る冬の石仏
御柱みはしら見上げし先は冬の空
境内の焚火奥に見る昔日
水鳥の音ふり向く一人旅
足湯して眺むる湖面冬うらら

※大根焚…だいこだき。十二月九・十日

の両日。京都の了徳寺の行事。

※銀杏…ぎんなん、銀杏の実のこと。

※おでん…関東焚きとも言う。

※御柱…おんばしら、諏訪大社に立て
てあり、山下りが有名。

